

国際関連情報 国際会議等

米国財務会計基準審議会 (FASB) との第 11 回定期協議の概要

研究員 おかもと たけひろ
岡本 健寛

1. はじめに

2011年8月18日及び19日の2日間、企業会計基準委員会 (ASBJ) は、米国財務会計基準審議会 (FASB) との間で、第11回定期協議

を東京で開催した。FASB からは Leslie F. Seidman 議長及び Thomas J. Linsmeier 理事が参加し、ASBJ からは西川委員長、加藤副委員長、新井副委員長、都委員、野村委員、小賀坂主席研究員、その他各議題を担当する研究員等が参加した。

2. 全体のスケジュール

日時	議題	主な内容
18日 午前	ASBJ、FASB の各アップデート	
	金融商品 (分類及び測定)	<ul style="list-style-type: none"> • キャッシュ・フロー特性の要件 • 事業戦略の要件 等
午後	金融商品 (減損)	<ul style="list-style-type: none"> • 3つのバケットを用いた減損モデル
	リース	<ul style="list-style-type: none"> • 貸手の会計モデル • 変動リース料
	保険	<ul style="list-style-type: none"> • マージンの会計処理 • 割引率の変更による影響
19日 午前	収益認識	<ul style="list-style-type: none"> • 不利な履行義務 • ライセンス契約 • プット・オプション 等

3. 議事概要

(1) ASBJ/FASB アップデート

ASBJ 側からは、国際財務報告基準 (IFRS)

に関する最近の日本国内の状況について、市場関係者の間で生じている懸念等も紹介しながら説明を行った。また、ASBJ と国際会計基準審議会 (IASB) との間で行った共同会議において両者間の覚書である「東京合意」の達成状況

を確認したことについても説明を行った。

FASB 側からは、IASB との覚書 (MoU) に基づく、米国会計基準と IFRS とのコンバージェンスの進捗状況や、今後のアジェンダに関するプロセスなどを中心に説明がなされ、意見交換を行った。

(2) 金融商品 (分類及び測定)

FASB は、金融商品を包括的に見直すための公開草案¹の公表以降、寄せられたコメントを踏まえその後の審議を行ってきており、金融商品の分類及び測定について公開草案の提案から大幅な変更が行われている。このセッションでは、この FASB の直近の議論を踏まえて、金融商品の分類及び測定について、現時点で ASBJ スタッフが整理した見解を説明し、意見交換を行った。主な論点は次のとおり。

- 金融商品の分類に適用されるキャッシュ・フロー特性の要件
- 金融資産の分類に適用される企業の事業戦略の要件
- 市場性のない資本性金融商品の測定

(3) 金融商品 (減損)

FASB は、上記の公開草案公表以降、金融資産の減損に関して寄せられたコメントを考慮し、その後、IASB と共同で検討を進め、2011 年 1 月の補足文書の公表を経て、現在では、減損処理の対象となる金融資産を 3 つのバケットに配分する減損モデルが検討されている。このセッションでは、この金融資産の減損の論点について ASBJ スタッフから見解を示し、意見交換を行った。主な論点は次のとおり。

- 3 つの種類のパケット
- バケット間の識別方法

- 単一の減損モデル
- バケット 1 の減損測定

(4) リース

FASB は、IASB と共同で公開草案「リース」(2010 年 8 月公表) で提案したリースに関する新たな会計処理の再検討を続けている。これまでに公開草案の提案から大きな変更が行われてきており、再公開草案を公表する予定であることも示されている。このセッションでは、こうした中、再検討の状況も踏まえて、新たなリース会計の考え方について、現時点で ASBJ スタッフが整理した見解を説明し、意見交換を行った。主な論点は次のとおり。

- 「債権・残存資産」アプローチの適切性 (利益認識その他の観点から)
- 業績及び使用量に依存する変動リース料の取扱い

(5) 保険

FASB は 2010 年 9 月にディスカッション・ペーパー「保険契約に関する予備的見解」を公表し、IASB は 2010 年 7 月に公開草案「保険契約」を公表している。寄せられたコメントを受けて、2011 年 2 月から FASB と IASB は共同で再審議を行ってきている。このセッションでは、この再審議の内容を踏まえて、現時点で ASBJ スタッフが整理した見解を説明し、意見交換を行った。主な論点は次のとおり。

- ビルディング・ブロック・アプローチにおけるマージンの会計処理 (単一マージンか 2 つのマージンか、単一マージンにおける利益認識)
- 割引率の変更による影響のその他の包括利益 (OCI) への反映の可能性

1 公開草案「金融商品に関する会計処理、並びに、デリバティブ金融商品及びヘッジ活動に関する会計処理の改訂」(2010 年 5 月)

(6) 収益認識

FASBは、IASBと共同で2010年6月に公開草案「顧客との契約から生じる収益」を公表した。FASBとIASBは、関係者から受領したコメントを踏まえて、公開草案の提案を共同で再検討しており、再公開草案が公表されることも決定している。このセッションでは、この再検討の状況も踏まえて、新たな収益基準の考え方について、現時点でASBJスタッフが整理した見解を説明し、意見交換を行った。主な論点は次のとおり。

- 履行義務が不利か否かの判定（不利テスト）の範囲
- すべてのライセンスを一時点で充足する履行義務として行う取扱い
- 顧客に無条件の買戻しを要求する権利（プット・オプション）が付与されている場合の会計処理
- 顧客の信用リスクが事後に変動した場合の取扱い
- 原価回収基準による収益の認識